

国策に抗して、原発全廃を闘い取ります

「若狭の原発を考える会」・木原壮林

市東さんの祖父・市太郎さんの代から肥沃な大地で育ち、東市さん、孝雄さんの農地死守の果敢な闘いを見守り続けてきた檜の木の下での「檜の木まつり」に決集された皆さんに、心よりの連帯の挨拶を送ります。また、半世紀をはるかに超える長きにわたって、農地を強奪する国策に抗して闘い続け、「闘魂益々盛んな」三里塚芝山連合空港反対同盟の皆さんに敬意を表し、エールを送ります。

皆様には、常日頃、反原発の闘いに多大なご支援をいただき、ありがとうございます。

さて、関電と政府は、運転開始後 45 年にもなろうとする超危険な老朽原発・美浜 3 号機を、当初予定から半年遅れて、6 月 23 日に再稼働させました。ただし、美浜 3 号機は、特重施設の設置が期限の 10 月 25 日に間に合わないため、僅か 3 ヶ月の営業運転で停止に追い込まれます。関電と政府は、なりふり構わず美浜 3 号機を再稼働させ、全国の原発の 60 年運転を先導しようとしているのです。

一方、特重施設の設置が期限の 6 月 9 日に間に合わない老朽原発・高浜 1、2 号機の再稼働は、2 年以上遅れる見通となっています。

この老朽原発をめぐる、関電と政府の意を汲み、原発マネーにしがみついた自治体の議会や首長は、再稼働への同意を表明しましたが、その理由の第 1 として「国策だから」を挙げています。しかし、国策で進められた福島原発では大事故が起これ、多くの人々が今でも苦難の生活を続けておられます。国策が、住民の安全・安寧をないがしろにし、住民に塗炭の苦しみを与えて進められることは明らかです。成田空港も然（しか）りです。

ところで、関電に高浜 1、2 号機の当面の再稼働を断念させ、美浜 3 号機の再稼働を半年も遅れさせたのは、圧倒的な脱原発の民意に支えられた反原発運動の成果といっても過言ではありません。この事実は、さらに大きな行動を展開すれば、老朽原発を廃炉に追い込み、それを突破口に、原発のない社会を実現できることを確信させます。

私たちは、反原発運動を通して、金のために、人の命と尊厳を犠牲にする社会と決別し、人が人間らしく生きて行ける、新しい社会を展望しようと考えています。

新しい社会を展望するにあたって、作物、生き物の生育という、自然の営みを基調とし、大地と水と空気と光の恵みの上に、成り立つ農業は、欠かすことのできない、人々の多くが関わらなければならない、重要な産業です。農業は、人間本来の生き方を学び、人間らしい感性を身に着けるための、学校でもあります。その農業が、今、国策によって、破壊されています。

農地を守り、農業を復権させることは、人が人間らしく生きる知恵を、自然に求めることです。また、人の命と尊厳を踏みにじる原発と決別することは、経済的利益のみを追求する、資本主義からの人間性の解放です。

市東さんの農地を守り、第三滑走路計画を粉碎し、全ての原発の廃炉を目指す圧倒的な大衆運動の高揚を、共に闘いとりましょう

最後に、私たち「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、1600 人、1300 人が結集した昨年 9 月 6 日、本年 6 月 6 日の「老朽原発うごかすな！大集会 in おおさか」などの行動をさらに拡大し、来る 12 月 5 日に「老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか」を開催し、美浜 3 号機停止日の 10 月 23 日～12 月 4 日を「老朽原発このまま廃炉！キャンペーン期間」として、美浜 3 号機廃炉に向けて、やれることは全て実行することを決定しました。皆様のご賛同、ご参加をお願いします。

ありがとうございました。